

答え合わせ・解説

問1	答え 4 上座部仏教	上座部仏教は、釈迦の教えを忠実に守ることを重視し、主に東南アジアのタイやミャンマー、スリランカなどで信仰されています。出家した僧侶の修行を重視し、戒律を守る生活を大切にします。一方、中国や日本に伝わった大乘仏教は、人々の救済を幅広く目指す教えとして発展しました。
問2	答え 2 ツンドラ	ツンドラは、ロシア語の「木が生えない土地」に由来します。短い夏の間だけ地表の雪がとけ、地衣類やコケ類、わずかな草が生えます。地中の深い部分は一年中凍ったままであることが多く、地表のみが季節的に変化する過酷な植生環境です。
問3	答え 1 インド	インドで誕生した仏教は、苦しみからの解放を説く教えとして、人々の間に急速に広まりました。その後、北方ルートを通して中央アジア・中国・朝鮮半島を経て、6世紀半ばに日本へ伝来しました。
問4	答え 4 毛皮	毛皮や羊毛は、遊牧民にとって非常に重要な資源です。羊、ヤギ、ラクダなどを飼育することで、食料としての乳製品だけでなく、寒さをしのぐための衣服や寝具の材料を得ることができます。これらは生活必需品であると同時に、他の地域の人々と交換するための貴重な交易品でもあります。
問5	答え 4 トナカイ	トナカイは、寒帯の過酷な環境に適応したシカの一種です。先住民族はトナカイの群れを移動させながら飼育し、乳や肉を食料として、毛皮を衣服や住居の材料として利用してきました。人間とトナカイは共存関係にあり、伝統的な文化を支える柱となっています。
問6	答え 3 ローマ帝国	ローマ帝国は当初、キリスト教を弾圧していましたが、4世紀に皇帝がこれを公認しました。さらにその後、国教（公式の宗教）とすることで、教えは地中海周辺からヨーロッパ全域へと爆発的に広まりました。
問7	答え 3 プレーリー	プレーリーは、北アメリカの乾燥した地域に分布する大草原です。かつてはバイソンが群れをなして生活していましたが、現在はその広大な土地の大部分が、最新の機械を用いた大規模な小麦栽培地として利用されています。乾燥帯の気候に合わせた土地利用が行われている好例です。
問8	答え 3 ラマダン	ラマダンはイスラム暦の第9月に行われる断食期間です。信者はこの期間中、日の出から日没まで一切の飲食を断ち、信仰を深め、貧しい人々に思いを寄せます。日没後には家族や友人と食事を共にし、お互いをいたわり合います。
問9	答え 4 年較差	年較差とは、一年のうちの最高平均気温と最低平均気温の差を指します。一般的に、海洋から遠い大陸の内陸部や亜寒帯の地域では、夏の高温と冬の極寒により、この差が極めて大きくなります。反対に、海洋に近い地域では海水の温度調整機能により、年較差は比較的小さくなる傾向があります。
問10	答え 4 ブラジル	ブラジルは16世紀からポルトガルの植民地となり、言語や宗教が持ち込まれました。この結果、ブラジルではポルトガル語が公用語となり、キリスト教が人々の生活や文化に深く根付くこととなりました。現在でもブラジルは世界で最もカトリック教徒の数が多く、国として知られています。
問11	答え 2 カトリック	カトリックはローマ教皇を中心とする教団であり、イタリア、スペイン、フランスなどヨーロッパの南部に多くの信者が分布しています。これに対し、北欧やドイツ北部などはプロテスタント、東欧は正教会が主流という歴史的背景があります。
問12	答え 4 ステップ	ステップとは、降水量が年間を通じて少ない地域に見られる、樹木のない短い草の草原地帯です。雨が降る短い期間にだけ草が一斉に成長し、それ以外の時期は枯れ草となります。砂漠と草原の境界的な環境であり、広大な地域が家畜の放牧地として利用されることが多いのが特徴です。
問13	答え 4 永久凍土	永久凍土は、たとえ夏になっても地下の凍結層が溶けずに残っている土地を指します。地表のわずかな層だけが季節によって溶けますが、その下はカチコチに凍っているため、水分が土壌深くに浸透せず、湿地になりやすい特徴があります。建物を建てる際にも凍土の影響を考慮しなければなりません。
問14	答え 4 草原	草原は、砂漠と湿潤地域の間位置するステップ気候などで見られる特徴的な景観です。背の高い樹木は育ちませんが、限られた雨水でも成長できる草が一面に広がります。家畜の飼育場所として非常に重要な役割を果たしています。
問15	答え 2 遊牧	遊牧は、羊、山羊、馬、牛などの家畜を連れて、季節ごとに適した水場や草地を移動する生活形態です。定住型の農業に適さない環境を賢く利用する知恵であり、古くから中央アジアなどの乾燥地で発達しました。家畜は食料だけでなく、移動式住居の材料にもなります。